

同窓会だより

発行

千葉県立船橋高等学校同窓会

千葉県船橋市東船橋6-1-1

〒273-0002 TEL.047-422-2188

ホームページ <http://www.funabashi.gr.jp/kenfuna/>

印刷 (株) サラト
姫路市北条宮の町172番地
TEL 0792-84-1380

題字 / 小原天籟先生



正門より校舎を眺める (昭和45年)

母校はいま

二十七年という長い年月を経て
船高に戻ってくることになった。

校舎に入る前に通学路をたどつてみた。正門から、京成・船橋競馬場駅(当時はセクター競馬場前駅)へ至る道は、新しく建った住宅は多いものの懐かしく、一度も迷うことなく駅にたどり着けた。しかし、途中『曙卓球場』は看板を下ろし、部活動帰りの生徒の胃袋を癒してくれた、アイスクリームやおでん等、駄菓子を買っていたおばちゃん(店の名前は知らないが)も、ぎょうざんぼー、サンケイホール、そして船高生の定番カレー屋『ポッポ』までも、その姿をなくしていた。

校舎に入って生徒昇降口に立つと、今まで記憶の底にあった学生時代の記憶が泉のように溢れ出てきた。さらに幅広い中央階段、細長い教室前の廊下を通ると、その記憶はさらに鮮明なものとなっていった。懐かしい先生方の授業、部活動のこと等語り尽くせないほどたくさんさんの思い出がこの校舎の中に詰まっています。改めて、諸先輩方が築き上げた船高が、そして数々の学友が私の人生の基本を育て上げてくれたことを痛感し、感謝の念でいっぱいである。

さて、我が校は今もなお在校生の努力で勉学に、学校行事に、部活動にと数多くの実績を残しているが、現代の国際化・情報化・超少子化等、社会情勢の激しい変化の中、もはや過去の歴史や伝統に頼ってばかりはられない状況である。私立高校は生き残りをかけて、自校の改善を図り、昨今の一部の私立高校の隆盛がある。今こそ公立高校の雄として我が校も時代に即した学校改革を進める時と考える。

- ① 生徒の進路保証
 - ② 生徒の豊かな心育成
 - ③ 地域に根ざした学校実現
- これらの実現のためには、在校生の頑張りのもとより、全教職員の間での共通理解、共通指導が必要不可欠である。私は船高の現職教員の一人として、さらに同窓会の一員として、微力ながら全力を挙げて学校改革に取り組んでいきたい。同窓会の皆様には、これまでに勝るとも劣らないご理解とご協力をお願いしたい。

寄稿 荻野 清隆

(千葉県立船橋高校教師・平成十五年着任
昭和五十二年卒)



校長 風間 勝也

(平成十五年着任)



同窓会会長 小石 税

(昭和三十年卒)

新たな同窓会に向けて

早いもので、会長就任から1年が過ぎました。この間、同窓生の皆さんには、春の同窓会を始め、同窓会行事にご協力いただき、感謝しております。

さて、平成15年春の同窓会は幹事学年のご努力で全日制・定時制・農業課程の同窓生の方々が一体となって、運営にあたっていただき、例年にも増して盛大に行われました。今回は、85周年ということもあり、県船を紹介するビデオを製作し、参加者に配布、参加者の皆さんにも十分に楽しんでいただけたものと思っております。

新たな事業を行なうには、いささか予算的な面でも検討する必要があることも事実で、今回の春の同窓会でも特別会計からの資金も一部に支出いたしました。幸い、現在は特別会計に過去の行事の余剰金もあり、当面、同窓会の運営に充てられるのですが、それも、限界があります。このような資金不足を補うことと在校生へのスポーツ・文化振興資金の調達を目的に、40万円のゴルフ大会を開催し、第1回の収益をあげることもできました。この大会に参加された70名の方々に、紙面をお借りして改めて御礼申し上げます。

今後、参加者相互の親睦を図り、同時に、同窓会と母校のたゆみ資金面からのサポートを継続するため、平成16年以降もゴルフ大会を継続して参りますので、更なるご参加をお願い申し上げます。

なお、現在、組織と会則の見直しを特別委員会に諮問し、役員70才定年制や学年理事の指名のあり方等、新たな同窓会のあり方を検討しているところでもありますが、同窓会について忌憚のないご意見、ご教示をお寄せいただきたく存じます。また、併せて、今後、同窓会へのご支援をお願い申し上げます。

元氣澆刺

本校に着任して以来、早くも5ヶ月が経とうとしています。1学期中は、たちはな祭、部活動では3年間の活動の成果を問う各種の大会等があり、文武両道に元氣横溢する船高生の気概を随所に見て、これぞ五弁五莖の伝統の橘花が香りであると思えました。

同窓会の皆様には、日頃から母校の様々な活動に対し物心両面でご支援、ご協力いただいておりますこと心から感謝申し上げます。

本校は、創立80周年記念を節目にして21世紀を迎え、価値観の多様化等に伴い教育改革をは

じめ様々な社会の構造改革のすすむ中を100周年に向かつて新たなビジョンを持つて歩み出しております。これからの時代が求める人材とは、既存のマニエールに隷属してしまわず、これまでに築かれた技術と知の集積をしつかりと理解し、その上に創造的な組み立ての発展を図る柔軟な思考、開拓意欲を持つ者ではないかと考えます。

生徒一人一人が、自分のライフスタイルに対する明確な強い意識を持つようにし、全国でも有数の進学校として、国際社会の中の日本の国づくりに貢献し得る人材育成に職員一丸とな

って努力して参りたいと存じます。地域に親しまれ、卒業生の誇りであり、在学する者全てが生き生きとした船高であり続けるよう、同窓会の皆様やPTAの皆様のご意見を伺いながら、着実に歩を進めて参りたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

着任にあたり

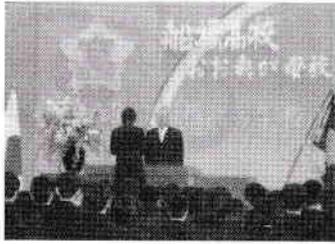


事務長 小川 静子 (平成十五年着任)

早いもので、着任して半年が過ぎようとしています。

事務室の仕事は、教育活動が日々安全に効果的に行われるための教材、教具を含めた環境作りですが、本校のように部活動が活発で進学成績も優秀な学校にはそれなりの課題が多くあります。定時制も合わせ数多くの部や同好会の活動場所が足りない、更衣する部室も足りない、活動の音が近隣には騒音となり、苦情をいただく等々は非常に課題です。

着任早々、同窓会作成のビデオを拝見し学校設立から今日までの変遷を勉強させていただきましたが、社会で活躍する数多くの同窓生、地域の方々の期待を实感いたしました。よりよい教育環境を維持するため精一杯努力する所存でございます。同窓会の皆様のご指導ご協力をお願い申し上げます。



平成15年入学式

平成16年「春の同窓会」へのお誘い

実行委員長 芹川兵衛
(昭和三十七年卒)

毎年開催されている「春の同窓会」、平成16年も例年どおり、2月11日、建国記念日に開催いたします。

この春の同窓会、「還暦」を迎える卒業生が「幹事」という樺を次々と引継ぎ、幹事学年として、実行委員会を組織し、開催することとなっております。

来る平成16年「春の同窓会」は、我々、昭和37年3月卒業の第14回卒業生が樺を引き継ぎました。既に実行委員会を組織し、会場も、昨年と同じ「フローラ西船」と決定し、準備にとりかかっております。

この「春の同窓会」は、母校、船橋高等学校で青春の一時期を共に過ごした仲間が、恩師を囲んで楽しいひと時を過ごし、旧交を温める、再会の場であり、また、旧制の中学校の卒業生から、今春卒業した初々しい同窓生まで一堂に会しての同窓会ですから、新たな出会いの場でもあると思っております。

今回の春の同窓会でも、年を経ても母校立船橋高等学校で過ごしたという共通の思いを先輩、後輩、同級生、そして先生方と分かち合い、世代を超えた輪が広がりますように、との思いを込めて、楽しい再会と出会いの場を演出してまいります。お近くの同窓生諸氏をお誘い合わせて、早春の一日を楽しく過ごしていただけるよう、是非、一人でも多くの方がお集まりください。お待ちしております。

船橋高校の歴史(一〇)

聖護院と御殿荘

県立千葉高校教諭 小川 信雄
(昭和三十八年卒)

今回は船橋高校の修学旅行で毎年宿泊所としている京都市左京区聖護院中町の聖護院と御殿荘のことをのべたい。

学校で学年単位でおこなう修学旅行の起源は明治五(一八七二)年の学制頒布直後、自然におこなわれていた登山や神社参拝にある。明治中期になると宿泊旅行とよばれて、毎年、定期的に実施されるようになり、大正から昭和初期になると「満州」(中国東北部)・朝鮮方面に一ヶ月もかける学校もあらわれた。戦時期には三重県の伊勢神宮への旅行も多くなった。

第二次世界大戦後になると目的は国内にかざられ、日数も大幅に縮小された。修学旅行は教育課程では一九五八(昭和三三)年の「学校行事等」で初めて規定された。旅行の目的はひろく文物を直接見聞することによって教育・指導の充実、知見と情操の育成、集団生活や公衆道徳の好ましい体験、学校生活の豊かな印象などを得させることをねらいとするとしている。

船橋高校の戦時中昭和二〇年代の修学旅行については戦前から最近までの「各年度教務書類綴」資料が五、六年前に不意に廃棄されたために、よくわからなくなっている。御殿荘のある聖護院は平安時代初期の最澄の教えの流れ(天台宗)である滋賀県の三井寺(園城寺)。

寺門派、なお比叡山延暦寺は山門派という系統の門跡の一つである。門跡とは特別の地位をもった、皇族や藤原摂関家出身など高い身分・格式をもつ僧侶や寺院をさす言葉である。聖護院は白河上皇の寛治四(一〇四〇)年に創建された。その事情は白河上皇の熊野詣を案内し先導する先達を勤めた園城寺の僧増善が、初代の熊野本宮大社・同新宮大社・同那智大社の熊野三山(和歌山県)の総務を監督する検校に任命された際、聖体護持の寺として聖護院を賜ったことに始まった。のちに後白河上皇の皇子静憲法親王が入寺して、熊野三山検校になった。

それ以来、この職は聖護院門跡が勤めることとなり、さらに聖護院門跡が熊野を拠点とする修験道も統轄するようになって、現在におよんでいる(修験道とは奈良時代の山岳修行者である役小角を祖とする仏教の一派で、山中の修行による呪力の獲得を目的とし、教義では、自然との一体化による即身成仏を重視した)。その後、室町時代に本山派と呼ばれた天台宗系修験教団の組織ができあがった(真言宗系は当山派という)。

江戸時代をへて明治五年に政府によって修験道廃止が命令されて、天台宗寺門派に属したが、戦後の一四六(昭和二一)年に独立し、現在は本山修験宗となっている。聖護院は門跡寺院であることから皇室との

関係も深い。それは天明七(一七八八)年一月の聖都大火で御所が焼失した時に、聖護院が光格天皇の仮御所となったことや、幕末、徳川第一四代将軍徳川家茂に嫁した仁孝天皇の皇女である静寛院宮(和宮親子内親王)が明治二(一八六九)年(七〇)年の間、京都に滞在したおり、聖護院が二年三月中の仮住居となっていることなどから知られる。

このような由来から聖護院には書院、本尊不動明王立像、不動明王像、智証(寺門派の祖円珍のおくりな)大師像、「円珍入唐求法目録」、「熊野参詣曼荼羅」などの重要文化財も多い。

したがって聖護院は檀家を持ち葬式法要で維持されている寺院ではない。そのためか、聖護院の境内の一部を借用して御殿荘という旅館の経営が一九五六(昭和三一)年から始まった。経営者は弁護士でもあった中坊忠治氏であった。現在の社長は忠治氏の息子であり、初代の住宅金融債権管理機構(現整理回収機構RCC)社長であった中坊公平氏である。

船橋高校の修学旅行の定宿となつたのは、伝聞では開業の翌年の一九五七(昭和三二)年からであり、それ以来、現在まで利用が続いている。重要文化財のある寺院境内のため、御殿荘は二階建てであり、これが現在となっている京都の町になじんだ良い雰囲気をもつ旅館となっている。現在は千葉県の高校の宿泊も多いが、その利用の嚆矢は船橋高校であったことは案外知られていない。生徒諸君も聖護院と御殿荘の由来を知って宿泊されると良いと思う。



切り取り続ける運命

アニメーション監督 片 瀧 須 直
(昭和五十四年卒)

昔からフラインダーをのぞいて風景を切り取るのが好きだった。それが嵩じて今に至っている。と云うたって、お前が今作っているのはアニメーションじゃやないか、描いた絵じゃやないか、といわれればそのとおりなのだけれど、描かれた絵にもいちいち四角くくりぬいた黒い厚紙を重ねて構図を眺めてみる。鉛筆で描かれた下絵のときにそれをやり、色がついて来てまたやる。彩色された絵面では構図の比重が変わって見えることも多く、画面の切り取り方を少し変えてみたりするのが楽しい。

映画フィルム自体、一コマ一コマが黒く縁取られた画面が連なっていて出来ている。フィルムとの関わりは高校の頃に深まった。高校生だったあの頃、放課後は校内の視聴覚準備室の片隅で8ミリ映画の編集機を回してばかりいた。そこから切れ目なく連続するようにして、今でも映像関係の仕事についている。アニメーションはテレビ番組の中でも最後までビデオ化が遅く、最後までフィルムで撮影していた。だが、それも最近ではデジタル化の影響で過去のこととなってしまった。パソコンの内側でデジタル的に彩色されるようになった絵はダイレクトにビデオに落とされていく。

昔からフラインダーをのぞいて風景を切り取るのが好きだった。それが嵩じて今に至っている。と云うたって、お前が今作っているのはアニメーションじゃやないか、描いた絵じゃやないか、といわれればそのとおりなのだけれど、描かれた絵にもいちいち四角くくりぬいた黒い厚紙を重ねて構図を眺めてみる。鉛筆で描かれた下絵のときにそれをやり、色がついて来てまたやる。彩色された絵面では構図の比重が変わって見えることも多く、画面の切り取り方を少し変えてみたりするのが楽しい。

からから、からから、回るリール。シャキッ、スパン、と、アセテート製のフィルムにスプライスのカッターを入れるあの感触。もちろん映画フィルム自体は今でもあるが、フィルムペーシの素材が変わってPET樹脂になり、とても硬くなって切

りにくくなった。余談を挟めば、今までアニメーションで使っていた彩色用の「セル」も映画フィルムのお余りのフィルムベースの加工品であり、アセテートフィルムがなくなるのと同時にそれもなくなくなってしまう。それだもて今のアニメーションはデジタル的に作るしかなくなっている。



「アリーテ姫」自作イラスト

生徒会行事を映像の映写で彩ることに積極的で、こちらもさかんにけしかけられてもらっていた。そして、そうして撮影されたものが自分たちの青春期の記録になるだろうことにも、お互い暗黙の思いが共通していたようにも思う。

そんなことだから、編集で落としたコマも、それだけでつなぎなおして別のリールに一本にまとめておいた。それは今でも我が家の物置きどこかにしまっているかもしれない。映画「ニューシネマ・パラダイス」のそれのように見事なものではないかもしれないけれど、残念なことには今ももうこの世にいないなってしまう何人の友人たちの顔もそこに見つけられるのかもしれない。

あの頃、映画の組み立ての理屈も何もしらなかったのはまじがいに、何を作り上げようとしているのか、その意識も薄ぼんやりとしていた。ただ、カメラの目の前で、フラインダーの中で繰り広げられる文化祭の準備や何かの光景が、自分たちにとって一期一会の大切なものなのだという実感だけは、なぜか敏感に感じていた。

一期一会の出来事のまぶしき。自分は将来もフラインダーを覗く人になるのだとおぼろげながらにここに宿しつつ、そこで自分が撮るものはドキュメンタリーに違いない。そう思い込んでいた。

けれど、所詮、気づいてみれば、自分が撮っていたのは自分たち自身の思いでしかなく、本来ドキュメンタリーとはそうあるべき現実の質量との緊張感あ

る対峙とは程遠いものなのであった。むしろ、自分は自分自身の心象風景を描くべきなのだろうなあ、と、高校三年の文化祭が終わってから思い込み始め、そこから急速にアニメーションへの傾斜を深めていった。それから20年ほどたざざわつてようやく判りかけてきたアニメーションの魅力とは、その画面の隅々の一点一面に至るまで人の心を縁由することなく出来上がらないものなのだから、というに尽きる。



アフレコ（台詞の録音）の風景

代表作品「アリーテ姫」他。主にアニメーション映画を作成。シブリ作品に携わったことで有名。

恩師探訪

母校で、14年間：人生の指針造り

丸石 照 機 先生
(昭和三十七年卒)

私は、母校である県船に昭和五十年から平成元年三月まで、十四年間にわたり在職しました。この間、化学を担当、十一年間担任をやりました。船高には二重に感謝しております。

私の高校時代

私が船橋高校へ入学をしたのは昭和三十四年の春でした。私は、慢性腎臓病で退院したばかりのため、入学式から一ヶ月半も後れて通学することになりました。高校三年間は、運動禁止・減塩食事療法を課せられ、好きな運動もできず、修学旅行にも行けませんでした。当時の船高は、木造校舎で男子生徒のほとんどは丸坊主でした。そして、まだまだ貧しい時代でした。今思えば、その当時の教師集団は、船高の進学校への道を目指していたようです。こうした環境にあつて、進学する生徒も少ない時代に、私は大学に入学することになりました。

母校へ転勤

高校時代のある実験授業のときのことです。先生が黒板を使って何か説明しているとき、私は何する風もなく実験台に置かれていた空の乳鉢を乳棒で摺り



NHK「お宝映像クイズ・見ればナットク！」

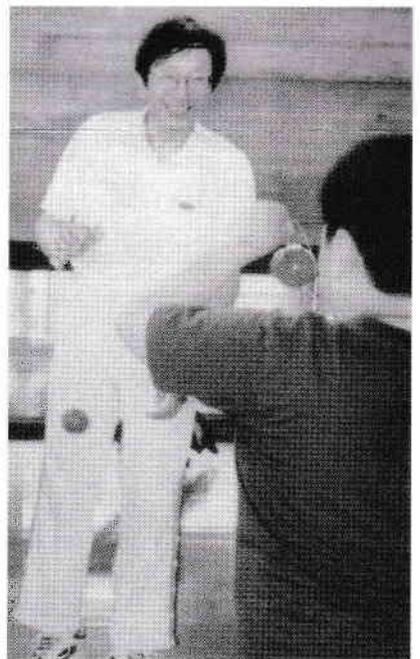
人生の指針造り
三十二歳から四十六歳、私の

はじめた。その瞬間、大音響とともに爆発し、窓ガラスが振動するのが分かりました。しかし、その先生は、こちらを見て、怪我のないことを知りそのまま授業を続けられました。それがきっかけで化学に興味を持つようになり、その恩師である鈴木末吉先生が転出されるときに私を銚子商業高校から母校へ呼んでくれたのでした。こうして、卒業後十一年間一度も足を向けたことのない母校で、十四年間は勤務することになったのです。

モットーである「無我生自存大和」(大和を求めて、自ら存るがままに生き、自ら存るがままを生かす)のもと、教育哲学・科学哲学を求め、授業・担任・生徒会・部活・組合等に積極的に実践的に取り組みました。その中から私は次の三つの人生の指針が見つけれられたように思います。

夢と理想

私は、教師になるために教員という職を選んだのであつて、最後まで教師にはなれなかつた。今でも思っています。当時、「進学校のひずみを考える」という私が書いたリポートに、次の一文が見られます。「ここに言う『自他の敬愛と協力』こそ、今の教育に求められているものとも重要な課題と私は考えているが、その実現には、『競争主義的価値観』は全くなじまず、『人道主義的価値観』こそふさわしいと言えよう。こうして、私が生徒と共にやつてこれたのは、絶えず矛盾に満ちた社会にあつて、常に「夢と理想」を追い求めてい



たからだと思つています。

化学教育

当時三年ほど、毎週火曜日午後の研修日を利用して、東京工業大学の科学史ゼミに参加していた。また、夏休みなどを利用して、化学工場の現場を仲間と一緒に多数見学した。これらは、授業の中に積極的に取り入れ、船高転出後整理して出版した。ある科学雑誌の「著者は語る」の表題には、「科学教育に必要な歴史と社会の視点」とあり、私の科学教育観をよく表している。

けん玉

化学研究室で生活を共にした助手の鈴木一郎さんが、ある日けん玉を持ってきて、私の前で得意そうに玉を前に振つてけん先に刺す「ふりけん」という技をやつて見せた。それ以来、二人は日本けん玉協会に入つて競い合い、全国大会で彼は優勝し、私は三位という戦績を挙げることになる。そして、必修クラブでけん玉を立ち上げて、生徒の中にもけん玉を普及した。なに

せ集中力が養え達成感が得られるので生徒には好評でした。

けん玉の先生に

今は、一年前に退職して、NPO法人日本けん玉協会の常務理事として、けん玉の普及に務めています。各種のけん玉大会やけん玉教室において、審判長や講師として活動しております。今春、私が監修して、『総合的な学習に生かせるけん玉遊び』(MOOK)を出版しましたが、だれでもできる楽しいけん玉ゲームからけん玉の歴史と文化を理解しよう。まで、けん玉の奥の深さにビックリされることと思います。けん玉の響きは世界に広がる平和の響きです。子どもから老人まで、心の技けん玉で、心豊かな社会を目指しましょう！

なお、不思議というか面白いというか、現在船高の教員で化学を教えている柴敏行先生は、私の教え子であり、当然けん玉もできることを申し添えておきます。

以上

同窓会事業報告

平成14年度事業報告

14年度の事業に伴う決算は別添表の通りです。

14年度決算より、ご認識頂きたい事が3点御座います。

第1は、会費収入が13年度比130,000円減収しました。これは少子化を受けて定員数が減少となったためです。

第2は、これに反し団体支出金が前年比でも105,000円平成12年は255,000円でしたから400,000円の増加です。過年度の支出規定の見直しもありましたが、近時の在校生の活躍を反映しているのが、喜ぶべきことでしょう。第1の課題を踏まえて、会費の見直しをするか在校生後援体制整備の必要が伺えます。

第3は、財産目録にあるトヨタハイエース4WDが平成6年式であることです。部活動に大いに寄与しておりま

すが、排ガス規制法の関係で、平成16年には更新が必要になっております。

同窓会だより発行につきましては、14年度から卒業10年以上の同窓生には、住所判明者全員を対象に「同窓会だより」・「2月11日春の同窓会案内」を同封し15,273通送付致しました。

17世代の卒業後10年迄の卒業生には、船橋高校同窓会ホームページにこれら記事を載せ、その旨を葉書により通知致しました。(3,589通)これにより、送付対象者は8778名増加しました。経費は2,630,459円と前年比363,170円の圧縮が出来ました。今後も、新卒生には葉書通知としていく予定です。

事業協力金について

同窓会だより発行・送付費用を中心として広く事業活動の原資として毎年い

平成14年度一般会計収支決算報告書

1. 収入の部		13年度決算	14年度予算	14年度決算	備 考
繰越金		2,230,506	2,178,256	2,178,256	
会費収入		978,000	868,000	848,000	本年全365 定59 前年全409 定90
雑収入	利 息 其 他	449 0	1,000 0	58 0	
合 計		3,208,955	3,067,256	3,026,314	

2. 支出の部		13年度決算	14年度予算	14年度決算	備 考
会議費	総 会 役員会	51,600 96,500	100,000 150,000	74,820 129,701	
通信費	通 信 印刷費	15,890 64,385	100,000 100,000	26,530 73,580	注：校内印刷費
雑費	消耗品費 人件費	1,449 10,000	20,000 20,000	11,640 10,000	総会案内宛書置き
後援費	団体支出金 卒業記念費	550,000 89,465	800,000 120,000	655,000 84,331	全国大芸出陣補助他 卒業証書贈
交際費	青 島 会 船橋会館費	0 35,000	10,000 100,000	0 15,000	クラス会補助 7件
交際費	旅 費 差 用 費	14,260 64,260	20,000 70,000	16,747 44,170	
事務経費	予 備 費	37,850 0	100,000 0	54,570 0	交通費等
次期繰越金		2,178,256	0	1,830,215	
合 計		3,208,955	3,067,256	3,026,314	

3. 財産目録		13年度決算	14年度決算
一般設計立金	700,000	700,000	700,000
積立金	60,158	60,158	60,158
合 計	760,158	760,158	760,158

平成14年度特別会計収支決算報告書

特別会計1 春の同窓会基金		13年度決算	14年度予算	14年度決算	備 考
前期繰越金		400,000	400,000	400,000	
会費等収入		2,250,000	2,300,000	2,350,000	会費(354名分) 謝辞志(含む) 前年度会費(223名分) 謝辞志(2名分)含む
雑収入	利 息	2,142 0	500 0	57 0	
合 計		2,652,142	2,700,500	2,750,057	

2. 支出の部		13年度決算	14年度予算	14年度決算	備 考
要 費	1,666,837	1,800,000	2,430,330	2,430,330	本年全354名 謝辞志229名 前年全227名
会 費	100,000	100,000	100,000	100,000	
通 信	100,000	100,000	100,000	100,000	
経理事務	100,000	100,000	100,000	100,000	
運 送	48,000	50,000	50,000	50,000	名札・参加者名簿等作成
事務経費	50,000	50,000	50,000	50,000	
特別会計2への繰出	187,305	100,500	719,727	719,727	
次期繰越金	400,000	400,000	400,000	400,000	
合 計	2,652,142	2,700,500	2,750,057	2,750,057	

特別会計2 事業関係		13年度決算	14年度予算	14年度決算	備 考
前期繰越金		11,047,053	8,665,336	8,665,336	【記念事業】関係
事業協力金		2,487,860	2,500,000	2,600,750	14年度同窓生879名謝辞サラト
会員名簿販売代金		0	0	6,000	前年度同窓生1,354名謝辞サラト
80周年寄付金		80,000	0	0	
特別会計1よりの繰入		187,305	100,500	719,727	
特別寄付金・雑費		6,475	1,000	1,141	
合 計		13,808,693	11,266,836	11,992,954	

2. 支出の部		13年度決算	14年度予算	14年度決算	備 考
「同窓会だより」発行		2,993,629	2,400,000	2,630,459	会費15,273+会費3,589通 前年17,904通
振込み手数料		2,205	3,000	1,155	
通 信		138,570	150,000	141,620	
名簿管理費		29,544	30,000	23,091	サラトデータ出力等
打合せ会議費		104,211	150,000	144,000	
学 校 寄 付 金		1,000,000	0	0	
ホームページ運営		200,000	60,000	60,000	13年立上開始、14年中期運営管理
特別寄付金・雑費		0	300,000	50,000	フンダーフォーゲルヨーロッパ
寄付者の礼状他		672,598	0	0	
雑 費		2,600	30,000	0	
立 替 金		0	100,000	90,000	表彰記念品(3万円×3)
予 備 金		0	0	600,000	
次 期 繰 越 金		8,665,336	8,043,836	8,252,629	積金3口増*5月10日監査確認
合 計		13,808,693	11,266,836	11,992,954	

平成14年度春の同窓会

9回目を迎えた「還暦を迎えた同窓生が幹事学年となり、実行する春の同窓会」ですが、今回は昭和35年石井英行実行委員長のもと、地元船橋の「フロラ西船」で前年比別名増の30名に増加をえました。実行委員のご協力により、定時制・船中他の卒業生も組織的に参加され、85周年として意義ある同窓会となりました。昨年の合唱に引き続き今年も在校生による器楽演奏によるオープニング、現在の船高のビデオ、芸能人のコントと同窓会などあり、短くも懐かしい同窓生に戻り癒しの時間を過ごされたいと思われまます。平成15年度は昭和37年卒芹川兵衛実行委員長の

役員について

昨年改選役員の方のみお知らせし誤解もありましたので、現執行部役員につき、掲載させて頂きました。

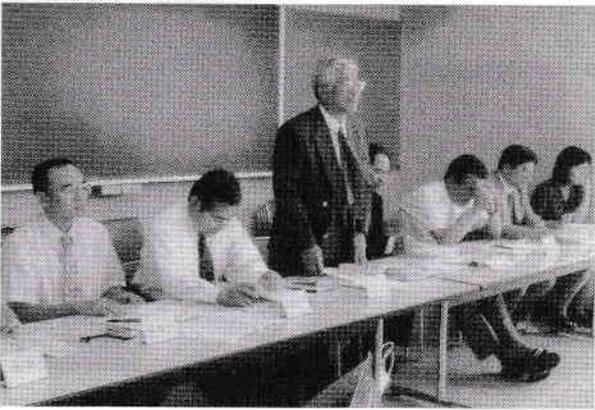
- 名誉会長 三代川幹雄(前会長)
- 顧問 前副会長 昭和30年卒 小石 祝(前副会長)
- 副会長 林 晃志(前理事・昭和28年卒)
- 副会長 金子 安雄(前理事・昭和34年卒)
- 監事 花澤 保夫(前理事・昭和35年卒)
- 監事 中村 秀秀(前理事・昭和32年卒)

スポーツ文化振興会基金の充足に向けて

昨年、「在校生に止まらず自覚ましい社会的活動をしている同窓生を同窓会として、報奨できないか」との要望に応え、「全国入賞レベル以上の実績をあげた部活動またはその部員」・「県立船橋高校の名を広めるような、著大な活動

をした者」に、原則として一件につき10,000円、100,000円、500,000円の奨励ないし報奨金を同窓会より授与する報奨規定を設置致しました。又、今年度より、一般会計の課題を踏まえ一般会計の団体支出金予算は限定し、多くを特別会計の報奨金より支出することと致しました。これらにより、特別会計を安定化するに、新たな財源が必要になります。いわば、在校生への後援会費づくりでありつつ、卒業生同士の交流にもなる活動が求められました。小石会長の発案で15年7月8日にゴルフコンペを実施し、80人の同窓生が集まり交歓されました。結果、経費等を除き30万円の寄付を同窓会へ受けることが出来ました。このゴルフコンペを中心として活動を広げ、同窓生の交流と在校生へのスポーツ文化振興に寄与していき基金につき正式充足を目指しております。参加及び協力頂ける方は事務局までご連絡頂ければ存じます。

このほか、ホームページの運用充実に向けて、業者の利用なども議論されております。どしどし、ご意見をお寄せ下さい。



おたより彼れ是れ

平成十五年春の同窓会返信用葉書で寄せられた会員の「声」です。

伊藤武雄（昭和23年卒）

15号のたより昭和23年卒の石橋安氏の一文が掲載されていましたが、当時は学校制度の変革期で私達は昭和18年に旧制中学に入校し、昭和22年は4学年修了して旧制高等学校（私立大学予科）に進学したもので、昭和23年旧制中学校5年で卒業した者、そのまま本校に新制船橋高等学校3年に進級して新制船橋高等学校第1期生として卒業しました。現在のスポーツの部の基礎は私達の学年が第一歩を踏み出したものであることも申し添えます。

塩塚 淳（平成5年卒）

アーチエリー部の最近の活躍、嬉しく感じています。頑張ってください。自分の頃はまだ「同好会」で、今の在校生の皆さんの活躍にはほど遠い、のんびりとした雰囲気でしたが、

堀木（小高）伸介（昭和48年卒）

かつて14年間、母校で勤務しておりました。在職中は気にしなかったことですが、他校へ転勤して改めて船高の素晴らしさがありました。昔も今も船高は素晴らしい学校です。

山下美和子（昭和43年卒）

おたより彼れ是れの欄で、ついつい自分と同じ世代の方を捜してしまいます。私も調剤薬局に勤めて23年が経ちました。同窓会だより、楽しみにしています。

関口知美（平成6年卒）

15号の「恩師探訪」を懐かしく読みました。文化祭の委員をしたことがありますが、模擬店をやったこと、衛生面にはくぐれども気をつけたいのと、船高の恥よ、とおっしゃっていたのが印象に残っています。私が早大に合格した時も、とても喜んで下さいました。

小林 宏（昭和21年卒）

戦時中から戦後にかけての卒業で、旧制の中学4年、5年、新制高校と3年に亘つての卒業でした。従つて卒業年次での同窓会ではなく昭和17年入学の為、昭和17年入学の同窓会をやっています。昭和17年入学のうち既に物故

者は45名となりました。当時は男子校でした。

篠塚 潔（昭和43年卒）

43年卒業生の同期会を毎年6月第2週に行っています。年一回仕事も忘れ共通の話題で盛りあがっています。同期の千石君（テレビで有名な千石先生）も取材に出かけていない時は出席して

藤本雅彦（昭和49年卒）

来年は卒業30周年とか、是非同級生の皆にお会いしたいですね。

植田孝一（昭和44年卒）

ここ数年、三番瀬に何度か行く機会がありました。そんなとき、JRや京成の船橋駅周辺に足を運んでいます。30数年前と町の様子が一変しているのに驚かされました。以前の面影を少しでも残しているところを見つけたら、ホッとさせられます。これからも、船橋の浅瀬での生物観察を続けていこうと思っています。

島崎洋一（昭和46年卒）

あらゆる公共スペースでの禁煙あるいは完全分煙を求める「タバコ問題を考える会・千葉」の事務局を担当しています。ご賛同いただける方はぜひご参加を。ホームページはありませんが、検索すれば、連絡先にたどり着けると

小林（露島）洋子（昭和46年卒）

第15号の同窓会だより「おたより彼れ是れ」のコーナーに中学時代の恩師のお名前を発見し、びっくりしました。船高の歴史を改めて感じました。ちなみに私も五十路となり、人生の後半戦ますます充実したものにならうと熱く燃えております。

富田祐志（昭和36年卒）

平成14年11月、母校参観の機会を得、訪問。明るい元氣な生徒、わかり易い先生の授業に接し、とても感動しました。文武両道の人間道場（学校）の県船健児にエールを贈ります。

大野晏且（昭和36年卒）

60才になったが、少年や60年後の春の如く、で過している。

山岸東太郎（昭和36年卒）

70才までは銅の道、60才からは銀の道、60才からは金の道、80才からは金剛の道、人生これからである。昨年はNPO・菌と健康の支援センターを設立、近隣友好と地域に貢献、ファイ

宮本（山田）澄子（昭和35年卒）

14年2月の同窓会は35年卒業者が世話人という事、私は定時制から参加しました。参加して活動に入るとき、何かと不安もありました。しかし、全日制の方々の心の広い事におどろきました。ユーマア的に話を前に進め定時制の私達を励ましてくれました。参加しての喜びを。

土田清順（昭和34年卒）

2002年4月末にサラリーマンを引退し、現在は母親の介護で悪戦苦闘中、料理本が愛読書になりました。

澤（近藤）三千（昭和37年卒）

相変らず地方暮らしに満足して、野の花や里山の山菜採りなどを楽しんでおります。同窓会だよりを見ると歳を思い出します。

川手（久保）良子（昭和36年卒）

ボラティエに趣味と毎日忙しがつております。特に水泳マスターズ大会にはフリーの200と400にエントリーし、あちこち出掛けて楽しんでおります。

安原 明（昭和32年卒）

昨年は徳川家康の宿願制定40年にて、旧東海道を日本橋から京都三条大橋迄、江戸時代の人々に想いを馳せながら、一人で気ままな歴史旅をしました。各宿場の土地の方々の温かさ等々、素晴らしい思い出ができました。

畑中 素晴（昭和60年卒）

船高だより15号恩師探訪山口佐代子先生とてもなつかしく拝見しました。私がサッカークラブの練習の時1つ上の先輩のキャプテンに足をけられつて怪我をした時、家まで顧問の先生とついで送ってくれました。とても優しい先生です。またお会いしたいです。

斉藤（今村）美紀（昭和63年卒）

たまに同窓会だよりを読ませて頂いてとてもなつかしく思います。今さらながら良い学校だったなあと今日この頃です。山口先生も定年されたんですね。

戸田（神野）綾子（昭和62年卒）

息子の幼稚園で船高の先輩に出会

「掲示板」

昭和48年卒の皆さんへ

卒業後30年が経過、小規模の集まりは結構あるようですが、この中で、学年全員で集まってみませんか。という事で、昭和48年3月卒の学年会開催の準備を始めました。代表にF組井上利郎氏を選出、平成16年10月17日あたりで開催したいと思っています。今後は、Eメールで連絡を取り合いたいと思いますので、

funkou4803@yahoo.co.jp

名前、クラス名、アドレスを登録願います。連絡担当B組島崎

掲載記事募集

今回から、「掲示板」コーナーを設けました。学年、学級、クラブ単位で集まるので告知したい、また、集まりがあったので報告したい等、皆さんから同窓生へのメッセージを掲載いたしますので、是非、ご活用ください。掲載を希望される方は、8月1日から末日までの間に同窓会事務局内「同窓会だより掲示板」係へ原稿を郵送してください。

お送りいただいた原稿は、事務局で編集のうえ、掲載させていただきます。編集等については、ご担当者の方に連絡しますので、ご担当者名、連絡先、電話番号は必ず記入してください。なお、連絡は郵便のみでお願いいたしますので、ご協力ください。

編集後記

第2学年の修学旅行の引率で、奈良、京都に行きました。最初は小雨模様でしたが、天気は徐々に回復し、生徒とともに秋の奈良や京都の風情を楽しみました。

関西方面への旅という、どうしてもUSJが気になりますが、のんびりとお寺や仏像を見て回るのもいいものです。

京都の宿泊先はやはり御殿荘。そういえば宿の廊下には修験者の修行の様子を写したパネルが飾ってありました。小川先生の原稿でまたひとつ勉強になりました。(ゆ)